

議論にあたって重視してもらいたいこと

各分科会で施策提言シートを作成する際、「担い手」欄については、ぜひ以下のことを踏まえて検討願います。

本市のまちづくりで目指しているのは、一人ひとりが生きがいを持って暮らすことのできるまちを創ることです。これを実現するためには、市民が地域の一員として活躍する場を持ち、自分のためだけでなく、他の人のために協力し合い生活することが重要になると考えています。

今回の大震災において、

- ・他の人のために自分が何か協力したい
 - ・自分の住む地域での強い結びつきが必要だ
- と思った人は多かったと思います。

また、計画停電を経験したことで、

- ・豊かな暮らしの中で便利さを得る代わりに、住民同士のふれあい、助け合いなど、様々なものを失った。
- ・災害への備えなど、個人の最低限の責任は果たすべきである。

と感じた方もいると思います。

このような他の人への思いやり、助け合いなどは、地域の暮らしの中でこそ活かされるものであり、地域で参加するしくみがあれば、その活動がさかんになっていき、結果として、巷で囁かれている「無縁社会」とは正反対の社会を築いていけると考えています。そして、このことは、行政の様々な場にも求めることができるはずであり、現在の行政サービスが抱える課題の解決にもつながるのではないかと考えています。

現在、今後10年間で行うべき施策の提案を検討していただいておりますが、施策提言シートの「具体的提案事項」を作成する際には、シートの「あるべき姿」を実現し、サービスの受け手側が今以上の満足を得るために、市民会議において市や市民その他の方との新しい係わりを議論していただきたいと考えています。よろしく願います。